

2022年3月1日版

10分で分かる!

# 次へのヒントが見つかるケース会議 ～パート①（概要編）～

島根県教育センター 浜田教育センター 教育相談スタッフ



皆さんこんにちは。★

この動画は、次へのヒントが見つかるケース会議の概略をまとめた事前視聴用動画です。

**突然ですが、、、**  
**学校で行われている**  
**ケース会議や**  
**事例検討会を、**  
**思い浮かべて下さい。**



★突然ですが、

★皆さんの学校で行われている  
ケース会議や事例検討会を思い浮かべて下さい。

ケース会議が必要だと分かっているにもかかわらず、担任やコーディネーターが個別に対応していたり、校内で有機的につながっていないなど、ケース会議を開催するまでにすでに負担感があることも……。ケース会議が開きにくい背景として 山形大学の佐藤節子教授は

### ①時間がない

学校現場の多忙感は年々高まっており、小学校では複数の役を兼務していたり、中学・高校では部活など、人集めや会議の時間設定自体が難しい現状がある。

### ②様子を見ましょうで終わる

会議の結論が「もう少し様子を見よう」ということで終結し、会議の成果を感じにくい、何が決まるということもなく、情報交換や現状の確認で終わることがある。

### ③原因、犯人さがしに終わる

事案の中で「何が悪いのか」「原因となっているものは何か」ということを追求することになり、さらに対応すべき問題が増えていくことで終わる。

### ④他への要求で終わる

「家庭がこうなるとよい」「本人がこんな風にならないと」など、他者や他機関の変化や介入を期待し、会議の参加者が主体的な関わりを見いだせずに終わる。



★ケース会議が必要だと分かっているにもかかわらず、なかなかケース会議が開きにくいという現状があるのではないのでしょうか。

山形大学の佐藤節子教授はその背景を次の四つにまとめておられます。

★一つ目は時間がない。

小学校では一人の先生が複数の役を兼務していたり、中学校や高校では部活動などで時間設定自体が難しいという現状がある。

★二つ目は、

会議の結論が「様子を見ましょう」で終わって、何が決まるというわけではなく、情報交換の確認で終わるといことがある。

★三つ目は、

事案の中で何が悪いんだろう、何が原因なんだろうという、原因探しや犯人探しの追及に終わる。

★

★四つ目は

「家がこうならいいのに、本人がこういうふうにならないと」など、と他者や他機関の介入を期待し、参加者が主体的な関わりを見出せずに終わる。

## 理想のケース会の要件とは？

あと⑪

目指すケース会議が必要だと分かっているにもかかわらず、担任などが個別で対応していたり、コーディネーター任せっきり、校内で有機的につながっていないなど、ケース会議を開催するまでに負担感があることも……。ケース会議が開きにくい背景としては

①時間がない

短時間で開催でき  
事前準備が簡便

②様子を見ましようで終わる

会議後のゴール  
の設定が明確である

③原因、犯人さがしに終わる ④他への要求で終わる

解決策にフォーカスされていて  
何らかの解決を示される形で終わる



それらの課題に対して、

- ★短時間で開催ができ、事前準備が簡便である。
- ★会議後のゴール設定が明確である。
- ★解決策にフォーカスされていて何らかの解決策を示される形で終わる
- ★これらの条件を満たす目指す理想のケース会議を紹介します。

短時間で解決志向！ブリーフミーティングを参考に

あと⑩

会議	PCAGIP	ブリーフミーティング
入	事前にシートに記入 (ない場合もある)	必要なし
	40分間～1時間	30分間
る	提供者に短く質問し ながら引き出す	困っていることを 5分間程度で話す
い	質問のやりとりの中 から自ら探っていく	たくさん出てくる ／選べる
に	提供者自身が納得す るゴールを目指す	具体的である
メモ	ホワイトボードで 共有	ホワイトボードで 共有
めバ	写真で撮って同じ 記録を共有	写真で撮って同じ 記録を共有

★私たちが、最も参考にしたのは、解決志向で取り組むケース会議の手法「ブリーフミーティング」です。

「ブリーフ」とは「短期・短時間」という意味があります。

★このブリーフミーティングをベースに

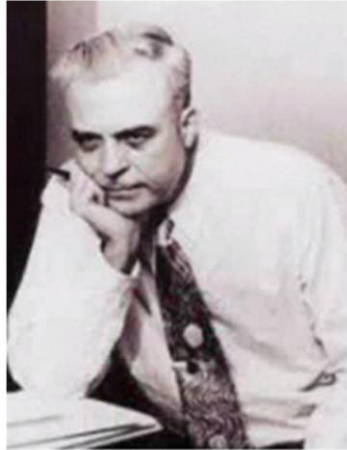
★他のPCAGIPなどのケース検討の良いところも取り入れて

★新しいケース会議「次へのヒントが見つかるケース会議」としてアレンジしました。

資料の準備の必要がなく、時間も30分から40分で終わり、事例提供者が目指すゴールに向けて、参加者と短い一問一答のやりとりで解決志向で取り組む会議です。記録も、ホワイトボードを見れば、流れがわかるようになっています。

・「**解決志向アプローチ**」

の考え方を**使って会議**を**すること**



精神科医 ミルトン・H・エリクソンにより提唱された



★私たちがベースとしたブリーフミーティングのポイントは、解決志向アプローチの考え方、技法を使って会議を行うというところです。

★この「解決志向アプローチ」の考え方は、精神科医、ミルトンエリクソンにより提唱されました。

## ①原因を追及しすぎない

原因がわかっていても解決につながるとは限らない

## ②解決像に焦点をあてる

一人ひとりに合った解決像をみんなで求めて！その人（提供者）  
がどうなっていたらよいのかという解決像に！

## ③うまくいっていないければ方法を変える

解決志向アプローチの3つの中心ルール

ルール1 うまくいっているなら変えるな。

ルール2 一度やってうまくいったことは、もう一度試せ。

ルール3 うまくいっていないのなら、何か違うことをせよ。

## ④まず、小さな変化を起こそう

小さな変化が大きな変化を生み出す



解決志向の考え方 をもとにした会議の進め方のポイントは、

★ひとつめ、原因を追及しすぎない。

★原因が分かったとしても、問題が解決に繋がるとは限りません。

★二つ目、解決像に焦点をあてる。

★一人ひとりに合った解決をみんなで求めて事例提案者がどうなっていたかという解決像に焦点を当てます。

■三つ目、うまくいっていないければ方法を変える。

これは解決志向アプローチの3つの中心ルール

①うまくいっているなら変えるな、

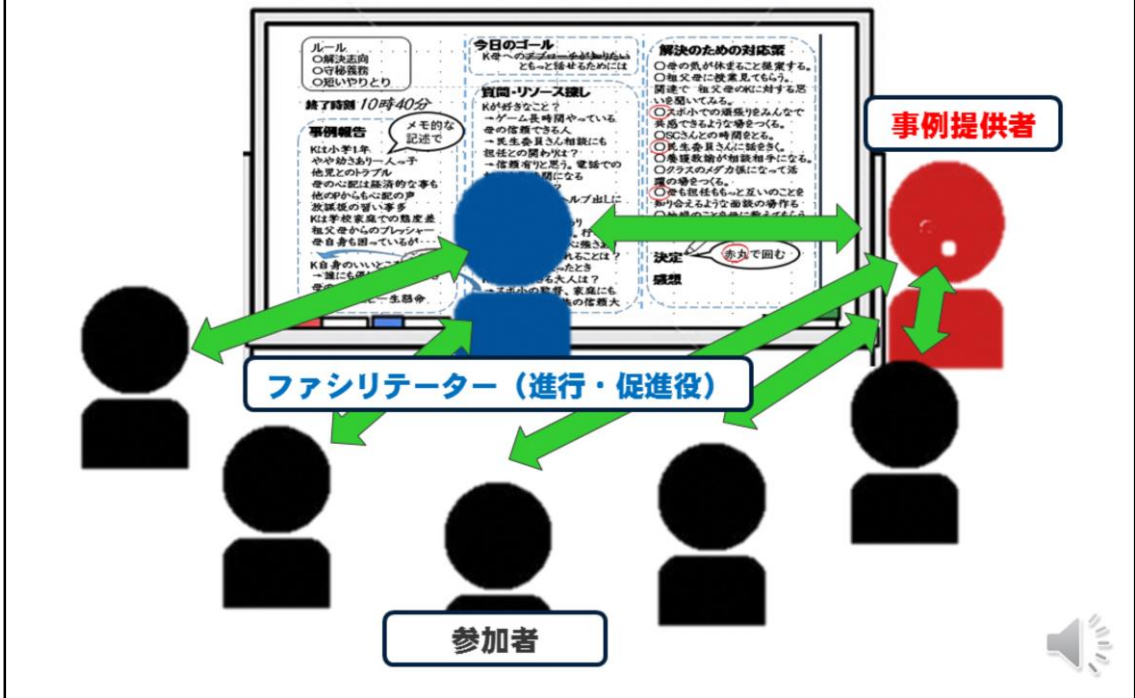
②一度やってうまくいったことは、もう一度試せ。

③うまくいっていないのなら、何か違うことをせよ  
という考え方に基づいています。

■そして、四つ目、まず小さな変化を起こすということ。

小さな変化が大きな変化を生み出すきっかけになると考えることです。





それでは、  
ここからは実際の会議の運用を見ていきます。

- 会議の構成メンバーは、
- ★事例提供者、
  - ★会議の進行役となるファシリテーター、
  - ★参加者です。

★ファシリテーターは事例提供者や参加者から出てきた意見を進行したり、促進したりします。

出てきた意見やアイデアは

★ホワイトボードや黒板に記録していきます。

参加者はそれぞれメモを取らずに顔を上げて、ホワイトボードなどを見ながら会議に参加します。

これも大きな特徴の一つです。



- ①ルールの確認 ファシリテーター
- ②事例の報告(困っていることから) 事例提供者
- ③ゴールの仮設定 事例提供者
- ④質問・リソース探し※短い問いで 事例提供者 参加者
- ⑤ゴールの再設定 事例提供者
- ⑥解決のための対応策を考える 参加者
- ⑦取り組みそうなことを決定 事例提供者
- ⑧記録(写真撮影) ファシリテーター



会議の流れです。

大まかに言うと、

○事例提供者は困っていることから事例の報告をし、今日の会議のゴールを決めます。

○参加者は その 決められたゴールに向かって 解決のための対応策を参加者みんなでアイデアをたくさん出して、事例提供者が取り組みそうなことを決定して終わる、という流れです。

※④で出てくるリソースとは、問題解決を考える手がかりやヒントになる事柄のことです。

## リソースとは！

### 探して！リソースの種 大きく育てよう



#### ■ ①自己リソース

<個人が内的にもっているもの>

性質、能力、興味、関心、嗜好、特技、好物、得意科目など

<外面的なもの> 容姿、器量、身なり、態度、雰囲気、自己表現方法など・好きなこと、得意なこと・やりたいこと、なりたいこと・例外、やれていること・続いて(増えて)ほしいこと

#### ■ ②環境リソース

<大事にしているもの> ペット(鳥、ハムスター、昆虫)ぬいぐるみ、手紙 ゲーム等

<外部に存在するもの> 自然、環境、施設、設備 など

#### ■ ③他者リソース

<私的な関係> 家族、兄弟、親戚、友人、地域の友達

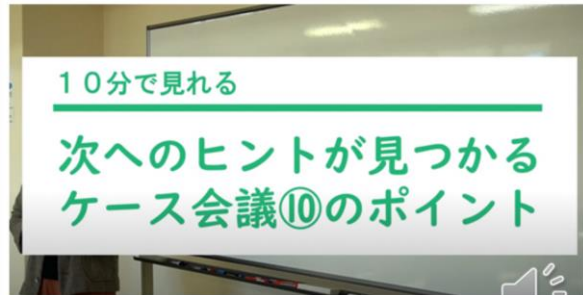
<主に公的な関係> 教師、医師、心理士、相談員、民生委員・親密性のある人  
積極的にかかわれる人・・・

(森俊夫、黒沢幸子「解決志向ブリーフセラピー」ほんの森出版)



次へのヒントが見つかるケース会議シナリオ		2021年 12月1日版
ルールの確認	①何が原因かを探すのではなく、どうやったらうまくいくか！具体策をみながら探すという解決志向の考え方で参加して下さい。 ②ここで出したことはここだけの守秘義務と決めてください。 ③また、質問のやりとりは短い文で、たくさん意見がでるようお願いします。(ルールを提示)	
終了時刻の概算	「会議の終了時刻は〇時〇分です。」(現在時刻から30~40分後)	〇時〇分 ※記入
事例の紹介	「では、事例について報告をお願いします。一番悩んでいることから話してください。5分程度で途中になってかまいません。」	〇時〇分 ※記入
ゴール仮設定	「この会議が終わった時に、どんなヒントが見つかったら良いと思いますか？見ている会議のゴールを教えてください。」	
短い質問とケース提示	「参加者のみなさんから短い質問をして、短く答えてもらいます。知らないことは知らないで答えて下さい。【すでに知っていること】やお手元の資料一覧も参考にして【その人が持っている資源】について促せる質問だと、なお良いです。質問が強いつかない人は必ず声をかけてください。」※時間に合わせて2~3周調整しながら ★一人の質問者が長く話す時はファシリテーターの大きな声で「ストップ！」*指示の紙を指すなどして意識喚起をして	〇時〇分 ※記入 ※人数に応じた調整
ゴール再設定	「みなさんのやり取りを経て、今思い描いているゴールはこのままでよろしいですか？変更があれば教えてください。」	変更があれば 3分間で済ませる
解決の対応策	「では、次へのヒントにつながる、対応策を思い付いた人から「〇〇する」という具体的な形でのアイデアを出して下さい。質より量がたくさん出る方がいけて、一見不可能なのではと思えるものでも大歓迎です。また、事例提供の人は、みなさんからの意見が出されている間は黙っていてください。」	〇時〇分 ※記入 ※人数に応じた調整
講師側による決定	「みなさんから出された対応策で、できそうかな？と思うものいくつかを選んで下さい。」(赤丸をつける)	〇
感想	「では、最後にこの会議でみなさんと一緒にヒントを探した感想をお話をお願いします。 ※時間的余裕があれば、終了時間を改めて参加者からも講師側へ一言。」	感想まで のて調整

「最初に示した通りこの会議での話はここだけで終わります。みなさんありがとうございました」



会議を進行するファシリテーター役は、  
難しそう、技術が必要だと思われることも多いかと思いますが、

- ★ファシリテーターのために、このシナリオと時間配分を目安に進めていけば、
- ★会議が進行できるというシナリオも作りました。
- ★会議の進行役割を分かりやすくまとめた動画も用意しています。

**ルール**

- 解決志向
- 守秘義務
- 短いやりとり

**今日のゴール** 母ももっと話ができるようになるにはどうすればよいか  
母へのアプローチが知りたい  
かかわりのヒントがほしい

**解決の対応策** 10時35分

- ・スポ小での頑張りの共有の場を作る
- ・母が気が休まることを提案
- ・**祖父母**にも授業を見てもらう
- ・**こ**をどう思ってるかきく
- ・SCと母の時間を作る
- ・民生委員の方に話を聞いてみる
- ・クラスのメダカ係になり活ヤクの場面を作る
- ・**母と互いのことを知り合えるような面談**をする。
- ・地域のことを母に教えてもらう

**終了時刻** 10時40分

**事例報告** 10時05分

- ・Kは小学1年生
- ・母とどうかかわるとよいか
- ・他児とのトラブル
- ・習い事 多
- ・母・・・本人への期待高い
- ・他の保護者から心配の声
- ・母 忙しそう、じっくり話したい
- ・経済的なことを心配 母子家庭
- ・トラブルがあることも心配
- ・学校と家庭との態度差
- ・祖父母からの母へのプレッシャー

**質問・リソース探し** 10時20分

- ・担任と本人のかかわりは？  
→よい
- ・家族構成は？  
→本人も、家族はカントクを信頼 祖父母ほめてくれる
- ・母が気にされていることは？  
→忙しい、祖父母からのプレッシャー
- ・本人の良いところ  
→動物好き、優しい、人なつこく
- ・家のことを話すか？ 好かれる
- 母から家で言われていることを話す
- ・頑張っていることは？  
→習いごと **スポ小野球**
- ・学習面は心配 気持ちが向かない
- ・母の信頼できる人→民生委員に相談も
- ・祖父母と母のかかわり →頼りにはしている

**決定** **感想**

**赤丸で囲む**

WRの1/3を目安にすると整理しやすい

板書エリアも、このようにフォーマット化することで、何について話しているのか、どうなっていくのかがわかりやすくなっています。

板書は、ファシリテーターが、議事を進行しながら書く場合もありますが、書記を設定して板書しても構いません。

板書エリアがフォーマット化されていることで、途中参加の人も情報を追いやすくなります。

目指すケース会

★事例提供者と参加者**みんな**が「解決志向」「短いやりとり」で

事例提供者だけに責任を負わず会議にアイデアを吹き込んで

★「**会議後のゴールを明確に**」

事例提供者の困り感が明確である方がより具体的なアイデアが出しやすい

★「**みんなに発言機会がある**」

参加者が平等な回数発言できるうよう、順番で。(パワーバランスなく)

★「**事例提供者**」が前に進む小さなヒントが得られるように

現在

問題の解決

問題

問題

次へのヒントが見つかるケース会議は、みんなで作り上げていくものです。

- ★事例提供者と参加者みんなが「解決志向」と「短いやり取り」を意識して、
- ★事例提供者だけに責任を負わずに会議にアイデアを吹き込んでください。

そして、★事例提供者はこの会議後に どうなっていたいのかが、★できるだけ明確にできるようゴール設定の機会も2回設けてあります。

★参加者には平等な発言機会があるので、★立場や役割を超えて同じ参加者として意見を言います。

★そして何より、事例提供者が前に進む小さなヒントが得られるようにみんなでアイデアを出して行ってほしいと考えています。

★★★今現在起こっている問題が、

★★★一足飛びに問題の解決に飛んでいくというイメージではなく、

★今ここで起こっている問題を、★参加者みんなで少しだけ持ち上げて、★前に進むためのヒントを与えてあげます。



目指すケース会

★事例提供者と参加者**みんな**が「解決志向」「短いやりとり」で

事例提供者だけに責任を負わず会議にアイデアを吹き込んで

★「**会議後のゴールを明確に**」

事例提供者の困り感が明確である方がより具体的なアイデアが出しやすい

★「**みんなに発言機会がある**」

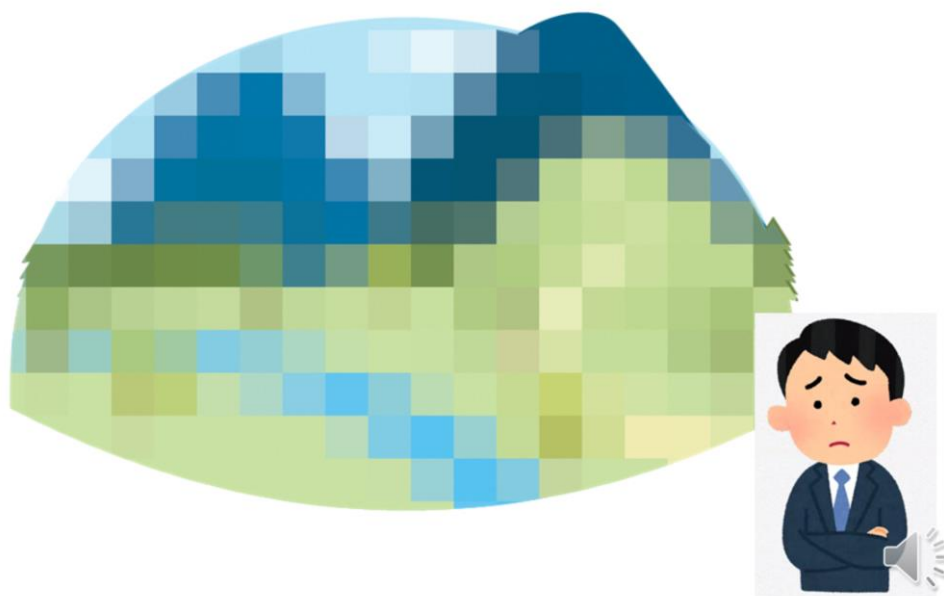
参加者が平等な回数発言できるうよう、順番で。(パワーバランスなく)

★「**事例提供者**」が前に進む小さなヒントが得られるように



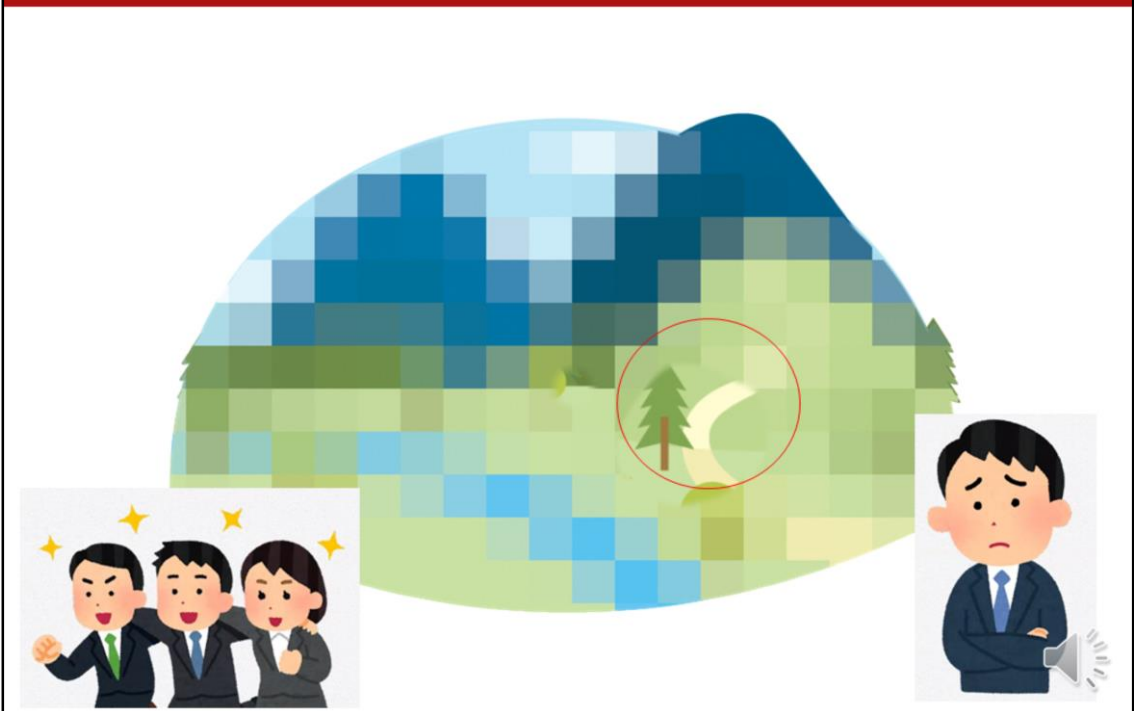
そして、★★★今よりもほんの少しだけ 前に進む。

という姿を目指したいと思います。



★

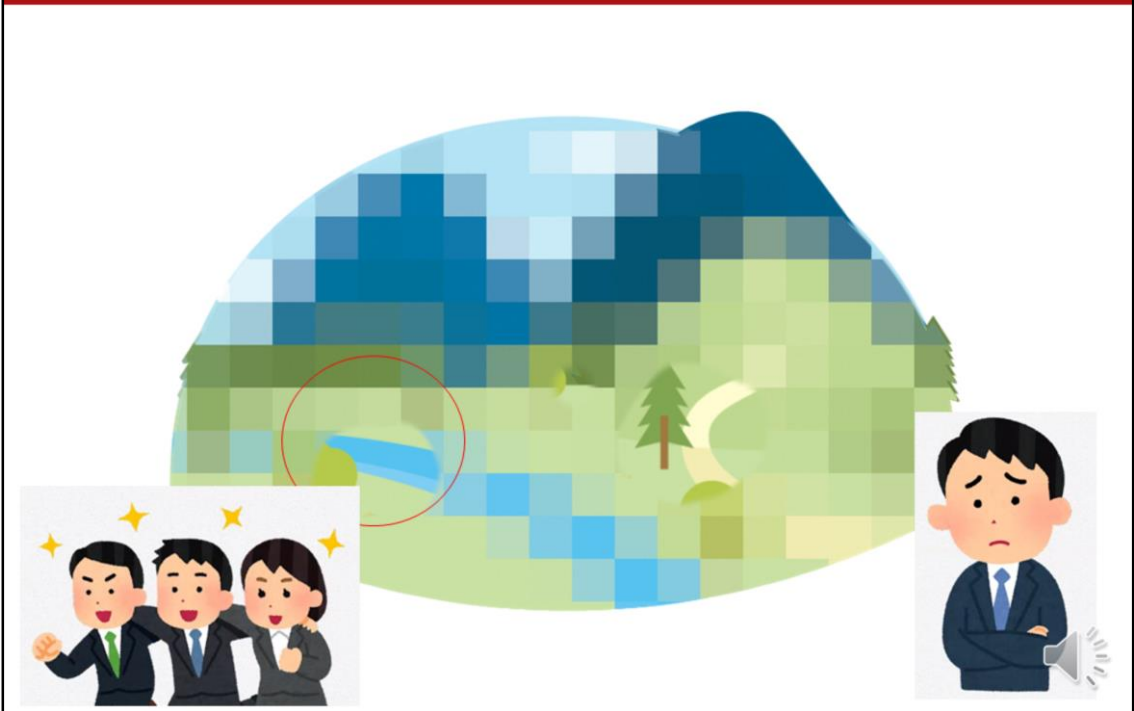




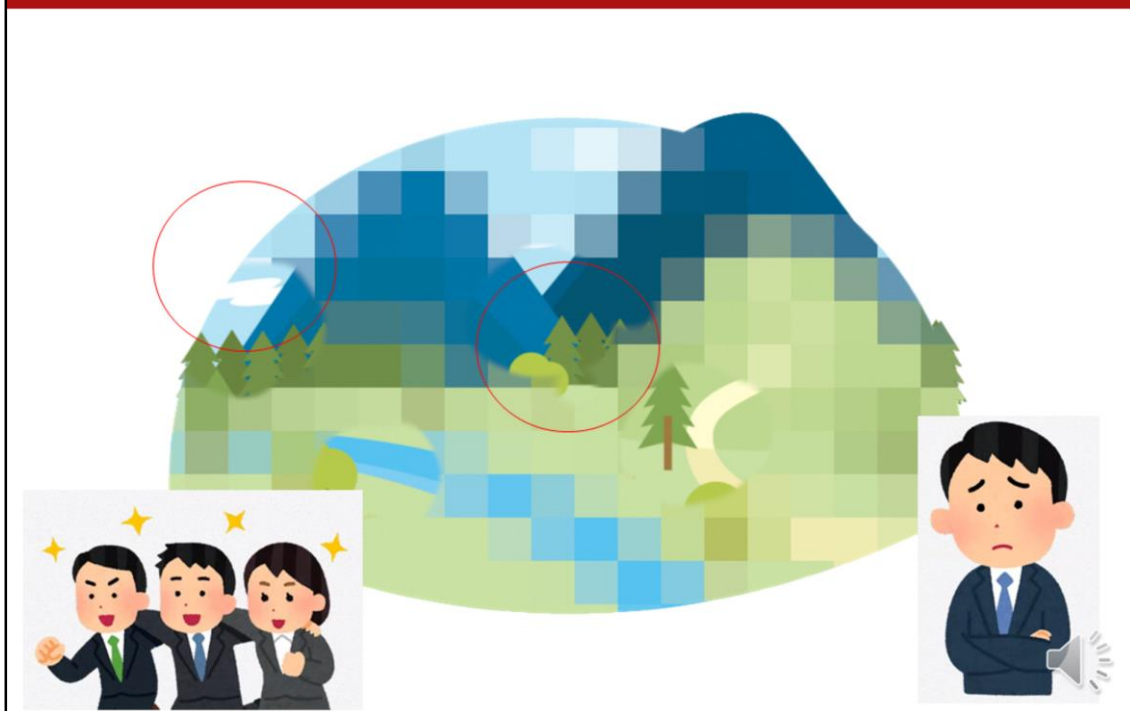
最後に、

次へのヒントが見つかるをわかりやすくイメージでお話すると、このように大きな課題の全貌が見えない中

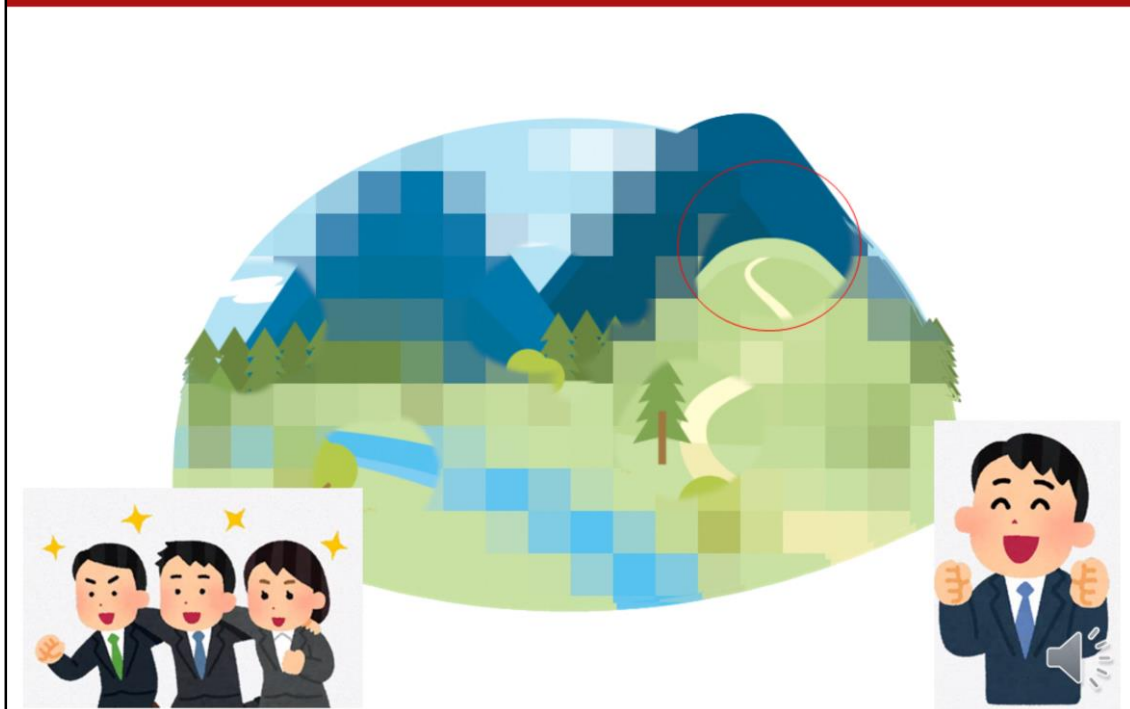
ほんの少しだけでも、取り組めることが明らかになっていく。ここやってみようかな？  
というアイデアが生まれるという状態が  
次へのヒントが見つかる。ということなのかもしれません。



★



★



★こうやって大きな課題の全体の解決策が見えなくても、今、取り組めることが明らかになっていく。

ここやってみようかな？というアイデアが生まれるという状態が次へのヒントが見つかる。ということなのかもしれません。

さあ！  
「次へのヒントが  
見つかるケース会議」  
やってみませんか！



さあ 皆さんも、次へのヒントが見つかるケース会議をやってみませんか。

以上で、終わります。  
ありがとうございました。

## 参考・引用文献

- ・「解決志向ブリーフセラピー」  
《森俊夫、黒沢幸子「ほんの森出版」》
- ・ワークシートでブリーフセラピー  
《黒沢幸子「ほんの森出版」》
- ・解決志向で子どもとかかわる  
《ジュディス・ミルナー， ジャッキー・ベイトマン  
「金剛出版」》
- ・30分でスッキリ!ブリーフミーティング  
《鹿嶋真弓・石黒康夫「図書文化」》
- ・30分でスッキリ!ブリーフミーティングの理論と実践  
《鹿嶋真弓・吉本恭子》

